



“フツー”の歯科医院が送る、 “フツー”の歯科医院のための口腔機能低下症入門書

フツアの歯科医院でもムリなくできる
スタートアップ! 口腔機能低下症 第2版
松島良次・塚本佳子 著

B5判/152頁/定価 6,380円(本体 5,800円 + 税 10%) / 医歯薬出版 (2024年9月)

長くメインテナンスに携わっていると、患者さんは口腔だけでなく、全身的にも精神的にも変化していくことを実感します。これまでは「歯科衛生士の仕事は歯を守ること」と考え、歯周治療・齲蝕予防に力を入れて「治せる歯科衛生士」を目指して臨床に挑んできました。しかし、私自身が経験を重ね、変化する患者さんをサポートしていくなかで、目指すものが“患者さんが生涯口から食べることをサポートする”に変化していきました。そのためには、患者さんの歯を守りつつ、口腔機能の低下を食い止める必要があります。臨床で、「患者さんの口腔機能を維持・向上させるためにはどうすればよいのか?」と悩んでいたときに出会ったのが本書でした。口腔機能低下症のバイブル本ともいえる本書の内容をご紹介します。

第1章は“噛める”と“食べられる”の違いや、口腔機能のトレーニングの重要性、口腔機能の視点を臨床に取り入れることのメリットなど、歯科医療従事者に理解してほしい重要なポイントが解説されています。ここはしっかり読みこんでほしいところです。

第2章は、実際の検査方法と注意点に加え、患者さんに実施する際のコミュニケーション方法も細かく記載されています。「つまりポイント」「臨床ココだけの話」といったなかなか聞

けない本音トークが紹介されており、見逃せないポイントになっています。

第3章は、検査結果を受けて、どのようにトレーニングを提案するかが解説されています。検査で口腔機能が低下していると判明した患者さんに、どうトレーニングに取り組んでもらえばよいのか悩むこともあるかと思いますが、そんなときは本章の「症状・検査・訓練の対応表」が参考になります。これに従って考えてみると、トレーニングの方向性が見えてきます。

第4・5章は、口腔機能低下症を見きわめるための患者さんのサインなどが説明されています。こうしたサインは一目見てわかるものばかりではないので、患者さんのどのような行動に気をつけるとよいのか、注目するポイントや患者さんとのやりとりの例が紹介されています。また、第6章は令和6年の診療報酬改定に沿った保険算定のポイント、第7章は口腔機能が改善された症例が紹介されています。

本書は症例も多く紹介されており、口腔機能低下症に取り組むにあたり理解したい内容が、実際の臨床をイメージしながら学べます。これからの時代は口腔機能低下症の知識が必須です。本書を活用して、口腔機能を守り、“患者さんが生涯口から食べることを”サポートできる歯科衛生士を目指しませんか?